

日本小児はり学会
第10回学術集会 2016年

ヴァンサン・モロン
老年病専門医、鍼灸師

症例

患者：12歳の女の子。

主訴：サッカーなどのスポーツ中の、前頭部、右側頭部、右側胸部、右側腹部の痛み。

現病歴：6ヶ月前から徐々に痛み出現。

既往歴：10歳時A型肝炎と胆嚢炎、花粉症。

家族歴：なし。

症例

臨床所見：痛い部位を別にして、視診、触診上異常なし。血液検査正常。

画像所見：頭部MRI、胸部X線写真、胸部CT異常なし。

経過

アセトアミノフェンと非ステロイド性抗炎症薬を処方したが無効。物理療法でも有効性乏しく、一般内科医とリウマチ専門医は精神医学的な問題だという結論に達した。患児のお母さんは鍼灸治療を試してみようと決めた。

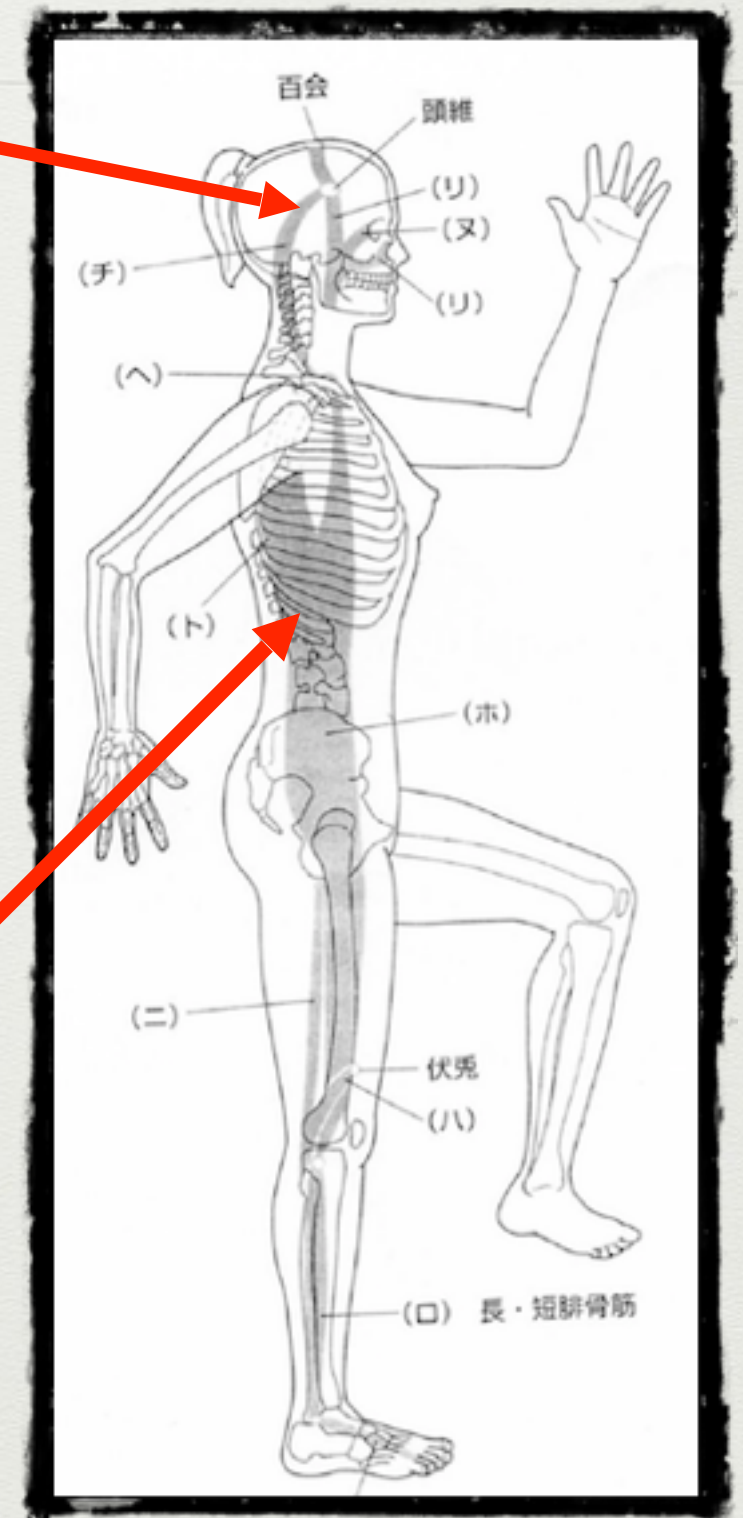
- ★ アセトアミノフェン・・・パラセタモールとも呼ばれる解熱鎮痛薬。
- ★ 非ステロイド性抗炎症薬（NSAIDs：エヌセイズ）・・・抗炎症作用、鎮痛作用、解熱作用を有する薬剤の総称。

診断仮説

運動時に足の少陽経筋に該当する部位に痛みが発現していることから、足の少陽経筋に問題があるのではないだろうか。

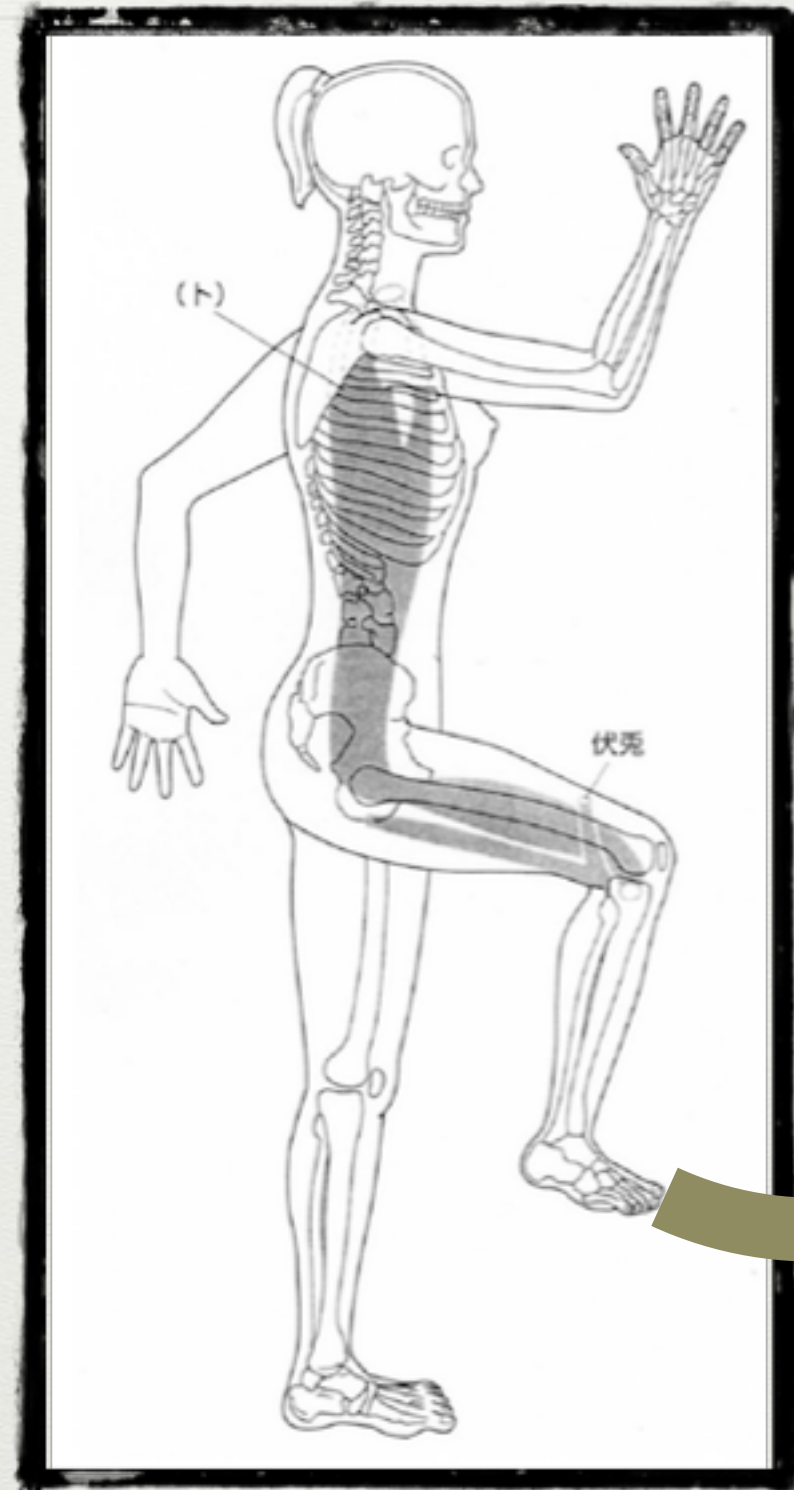
痛み

痛み



診断仮説 (2)

胆の病が足の少陽経筋に影響を及ぼしたのではないか。



使用鍼

セイリン社製

ディスポーザブル鍼

15mm-0.20(N°3,B Type)



治療

右側のみ：

足竅陰（G B 4 4）：足の少陽胆経→五行穴の井穴。

足臨泣（G B 4 1）：足の少陽胆経→五行穴の兪穴。

足の少陽胆経に沿った圧痛点。

刺入深度：約 5 ～ 6 mm。

置鍼時間：約 1 5 分、鍼の得気はなし。

結果

初回の治療で60%症状が改善し、
7日後の二回目の治療で症状は消失した。

考察

考察：経筋治療は動作時のつっぱりや痛みに対して有効であるが、今回のように過去に胆のう炎などを起こした症例では、胆の病が経筋に悪影響が及ぼした可能性も考えられる。尚、中医学によれば「経筋は経脈が養う筋肉系統」としている。

子供に対しても、経筋治療は即効性があり、誠に有用であると考えられる。

ご清聴を感謝致します